

玉野市立学校適正規模化地域説明会（宇野中学校区） 会議録（要旨）

- 日 時 令和4年9月27日（火）19:00～20:40
- 場 所 産業振興ビル
- 出席者 妹尾教育長、小崎次長、山内教育総務課長、的場学校教育課長
- 参加者 17名（地域15 保護者2）

1 開会  
教育長あいさつ

2 説明  
教育総務課長説明

3 意見交換

参加者1：維持費のグラフだが、未来は長い年数の平均を出しているが、過去は5年だ。これはなぜか。もっと遡らないと、この比較は何かおかしいのではないか。

それから、適正規模化計画策定までの流れだが、いまの時点の、具体的な計画が示されていない状況では市民も意見を持ちにくい。令和5年12月に案を策定して、それを議会にかけて、良しとなればパブリックコメントとのことだったが、パブリックコメントだけか。それとも議会にかける前、あるいはその後に、再びこういう地域別の意見交換会を持つ予定があるか。

最後に、小規模校のデメリットは手引きから引用したということだが、これは実例というか、数字、データに基づいたものか。

教総課長：まず、維持費を向こう40年で計算している理由だが、校舎の寿命は80年程度と想定していて、20年おきに大規模な改修、40年目は長寿命化というさらに大規模な改修をしていく。そういったものを見込んだうえで平均を出すべきで、寿命の半分くらいを見て向こう40年で計算している。

次に、過去がなぜ5年かだが、これは今現在の玉野市の体力、いま玉野市が負担できる金額の何倍くらいになるのかを見ないといけないので、あまり遡りすぎると現状から離れてしまう。本当は1年2年で見ればいいが、年によって大規模な改修をしたりしなかったりということがあるので、ここでは5年間の平均としている。

次にパブリックコメントだけかだが、現時点では、案を策定した後は、パブリックコメントのみを想定している。答申が出ればそれに基づいて案を策定していくようになるので、答申に至るまでのプロセスでどうしていくかは、検討委員会の議題として話をしたいと考えている。答申後の流れも内部で検討していきたい。

最後に、メリットデメリットについては、文科省が傾向として挙げているものであって、例えばコミュニケーション能力がつく割合が何パーセント、つかなかった割合が何パーセントというものではない。あくまで傾向を国がまとめたもののご理解いただきたい。

参加者2：維持費だが、年平均9.3億円の経費がいくらに減ればいいのか。複式解消を打ち

出していて、当面なくなるのは後閑小と鉾立小と思うが、その2校がなくなって経費はいくら減るか。

教総課長：具体的にいくらというものはないが、今と同じくらいになれば一番望ましいとは思っている。ただこれは、(主に)建替等に対する経費なので、例えば1校減らしたからといって急に効果が表れるものではない。むしろ短期的に見れば、スクールバスなどで支出が増える場合もあると思うが、将来的な維持費をどうしていくかという観点で考えてほしい。

いま2校だけ減った場合の試算はしていないが、適正規模化計画の草案にあるプランAで、小学校が5校減って9校になった場合を試算していて、今後40年間の年平均が7.1億円くらいになると見込んでいる。ぜひ玉野市のホームページから、玉野市の適正規模化計画の草案をご覧いただければと思う。

参加者3：他地区の説明会で、子ども向けのアンケートの内容について質問があって、今日は資料がないと回答していた。子ども向けのアンケートは実施済みか。我々の見ないところで、いつの間にか実施しているが、アンケートの内容を教えてください。

教総課長：先週、各校にアンケートのフォームを送って実施を依頼した。内容は、あなたが通っている学校の学級数は多いと思いますか少ないと思いますか、1クラスの人数は多いと思いますか少ないと思いますか、そういったことを聞いている。その他、いまの学校でいいと思うところを聞く設問、逆に、いまの学校で課題と思うところは何かという設問。自由筆記で、今後学校でこういうことがあったらいい、こういうことをしてほしいを聞く設問。こういった内容になっている。

参加者3：ホームページなどで公開することは可能か。

教総課長：今は公開していないが、可能だ。

参加者3：できれば市民の一人として見たい。検討してほしい。

教総課長：検討する。

参加者3：今日配られたアンケートで、1学年は何クラスが望ましいかという質問があった。友達が多い方がいいので、2クラスくらいを選ぶのではないかと私は思うが、仮にたくさんの人、たくさんの子どもが2クラス以上を選んだら、築港小と宇野小が統合して、築港小が廃校になるのではないかと非常に危惧している。

子どもの数が多ければ、いろんな考えに出会えたり、きっと切磋琢磨もしたりするのだろうが、長い距離を歩いて、国道を渡って築港の子どもが宇野に通うことまで考えて2クラスを選ぶ人はきっといないと思う。

だから、仮にそういう結果が出て、検討委員会で1学年2クラス以上がいいということにまとまりつつあったら、まとまった段階で意見を言う場をどこかに設けないと、宇野地区の人間はもう意見を言えない。案が策定されて、案が取れてしまつて、1学年2クラスがいいとアンケート結果を見たらなつていたとなつてしまつと、本当どうなるのかと心配する。

ある程度固まった段階で具体を各地域や子どもや保護者に示して、市民が納得する結果が出るような、そういう策定までの道筋をしてほしい。意見を言う場を途中で持ってもらえないか。

教総課長：検討委員会に報告したい。

参加者4：検討委員会のメンバーを公開することはできないか。

教総課長：ホームページ上で公開している。

参加者4：いまここでは言えないか。分からないか。

教総課長：言えないのではなく、手元に名簿がない。

参加者5：大規模校について適正化は当てはまらないか。玉野市の適正規模化計画は、小規模校の適正化計画のように思うが、大規模校のメリットデメリットも載せていいように思う。

教総課長：過去に人口が増えていた頃は、例えば日比から二日比が分かれたり、玉小学校から奥玉が分かれて更に玉原が分かれたりということもあった。いま、子どもが増える状況にあればそういったことも考えられると思うが、荘内小学校も将来的には学級数が減って、いわゆる適正規模の中に入ると考えられる。わざわざ分割することまでは想定していない。

参加者5：ということは、小規模が減って「小学校の数が少なくなるイコール維持費がかからない」という方向で、やはり維持費の面からこの適正化は行われているのか。根本にあるのはやはり維持費か。

教総課長：維持費の側面があることは否定できない。それは言われるとおりだ。維持費もちろんそうであるし、一定規模の児童生徒がいる学校の実現、この2つが目的だ。

参加者5：やはり地域の者としては、子ども的人数が少なくなるから、複式になるから、財政面があるから仕方がないとは諦めきれない。

自分たちの地域の学校がなくなるということは、子どもにとっても地域住民にとってもすごい大打撃だ。その辺を市はどう考えているか。ただ切磋琢磨で成長していく小学校時代ではないと思う。なので、安易に小学校を小規模になるからといって減らすというのは考え直してほしい。少しでも伝わるところはあるか。

教総課長：各会場で似たような意見をいただいている。考えや気持ちは十分理解しているつもりだ。

参加者5：説明を何度もしてほしい。話し合いの機会をたくさんもらいたい。

参加者6：もしこの計画に反対という人がたくさんいた場合、中止になるか。それとも少し地域住民の思いに寄せた案になるか。中止になったらその時点で委員会は解散になるか。

教総課長：検討委員会からどのような答申が出るかだと思う。適正規模化は必要ない、あるいは時期尚早となればそこで終わる。委員の任期がどうなるかはその時に決めることになると思うが、そういう流れが全くないというわけではない。

参加者2：小規模校のデメリットとは本当にデメリットかと言いたい。

まず1番（資料中の番号）、「集団の中で自己主張をしたり、…」とあるが、小規模校だからこそやりやすいと考えられるのではないか。大勢の中だと自己主張をしにくくなるのが今どきの子どもだと思う。そしてトラブルがあったときにゆっくりとお互いの話を聞けるのも小規模校ならではのメリットだと思う。なのでこれは逆だと思う。

それから2番、「人間関係や相互の評価が固定化しやすい」とあるが、これは教師の力量によるところが多いのではないか。人数の問題ではないと思う。現在の先生は、ものすごく忙しくて精神的にも肉体的にもゆとりがない。働き方改革をして、ゆとりができて、自主的に研修をして力量を伸ばす。そういうゆとりが教師に与え

られたら、これも小規模校ゆえのデメリットではないと思う。

3番「協働的な学び」、8番「多様なものの見方、考え方」、9番「多様な活躍の機会がなく」、これは1学年だけで、しかも子どもだけで授業をするという、凄く固定的な考え方だと思う。これからの学校は、異学年の交流や学校外との交流などを考えないといけない。企業でもリモート会議などがあり、そういう機器も使えると思う。だから、そういう狭い考えに基づくデメリットだと思う。

そして5番「切磋琢磨」だが、長年切磋琢磨がいいんだという考え方の下に間違ってきたと思う。切磋琢磨がいいと言って競争してきた結果、子どもたちはどんどん学校から脱落している。この平成27年の古い資料ではなくて、今現在を見つめて、考え直さないといけない時代に来ていると思う。

それから、パブリックコメントだけでなく、例えば中学校区とかで、何度も市民の意見を聞いてほしい。

山田の会に参加した時、私は皆さんがこの計画について知らないから知らせる工夫をしてほしいと言ったが、その後広報紙に何も載っていなかったし、地域のアンケートも市民センターまで取りに行く人は大勢はいないと思う。私は町内会の係をしているので、近所の方に配ったが本当に知らない。皆さんが知らないことが一番の問題だと思う。皆が知ったうえで、ぜひ意見交換の場を持ってほしい。

参加者7：私は中学校の元教員で、全校生徒62人の小さい学校から、県下最大の学校に勤めたこともある。玉野市の中学校は、宇野と荘内を除いて非常に生徒数が減少している。

玉中学校は、私が勤めていた昭和61年は各学年7クラスで合計21クラス、全校生徒880人くらいだった。現在は3学年合わせて5クラス150人くらいだ。5学級では9教科の教員が割り当てられていないから、国語2名、社会科2名、数学1名、英語1名、美術1名の非常勤講師が入り、技術と家庭科は他の教科の正規の教員が臨時の免許でやっている。そのように非常に苦しい状態だ。部活動も、多くの部が廃部になったり、他校との合同チームになったりしている。みなさん小学校の話題をたくさん言われているが、中学校もできるだけ統廃合を考えた方がいいと思う。

それから教育にはやはりお金がかかる。施設、設備、教材、教具、いろんな面でお金がかかる。玉野市の人口がどんどん減って予算も減っていくことを考えると、学校数を少なくして、それぞれの学校に充実した予算をつけてもらうという考え方の方が良いと思う。自分が卒業した学校がなくなるのは非常に寂しいし抵抗があると思う。それは心情的に理解できるが、これから複雑な時代を生きていく子どもたちにどのような教育が必要かという観点で、これからの教育を考える必要があるのではないか。

先ほどのデメリットの話で、コミュニケーション能力とか、切磋琢磨とか、協働的な学びの話が出ていたが、テレビのインタビューで、いろんな企業の社長がコミュニケーション能力や人間関係を構築していく力が非常に大切と言っていた。そういうことを養うためには、学校行事や課外活動、部活動などを通して、多様な意見や物の見方、考え方に触れて、自分の考えを形成していく力が非常に大切になってくると思う。その中で、切磋琢磨は競争だけではないと思う。ただ、すごいなと感

じるだけでもいいと思う。そういう意味で、少人数よりはある一定規模があることが非常に大切だと思う。

もう一つ教員の立場から言うと、全校生徒62人の学校は1教科1人で、教え方に悩んでいてもその授業は1年後にしかできない。ところが、県下最大の学校では同じ教科の教員が7人いて、いろんな教え方をされていて教員も学べる。だからある程度の規模がないと教員も成長できないと思う。

それから複式学級。完全複式になったら担任3人と校長だけで教頭もいない。合計4人だ。そんな学校で、校の行事とか、校務分掌とか、子どもへの係活動の指導とかが本当にできるのか。それから、3人しかいないので体調が悪くても休めない。教員としてそれでもやる覚悟があるのかどうか、その辺も非常に疑問に思う。

今年度から小学校5・6年生は教科担任制をできるだけ導入するようと言われている。教科担任制と言っても算数と理科と英語だが、これもある程度の規模の学校でないとできないと思う。義務教育学校を早く作って、それをモデルとして運営していけば、教科担任制などもスムーズにいくのではないかと思う。

最後に、例えば築港小が宇野小へ行くといったとき、学校名が宇野小なのは築港小の人にとってもものすごく抵抗があると思う。だから統合する際は、学校の名前も何も、全部新しい学校にする方がいいと思う。

参加者2：中学校の状況は本当に心配している。校長会が市長に申し入れたのは4月の初めだった。統合以前に玉野市は改善策を考えているか。もしもあまり改善できていないのであれば、中学校はまだめっちゃくちゃな状態なのか。統合するにしても、今後多くの問題が見えてくると思うが、新聞にも出て提起された問題が、いまだに困った状況で、本当に即統合が必要な状況なのであれば、今後何が起きても、困った状態が続いていくのではと凄く心配になった。

教育委員会には、以前の説明会で、実際に見て小学校や中学校の実態を把握してほしい、教育者の観点からそれぞれの学校や玉野市に必要な教育は何かを考えてほしいとお願いした。今日の話からすると、やはり統廃合が必要ということか。統廃合をしてどんな学校にするか、教育委員会の考えを示してもらえないと、分からない。困る。いろんなデメリットを教育の工夫でメリットに変えていこうという考えも聞かせてほしい。教育委員会の思いをもっと聞かせてほしい。

複式の話もあったが、後閑小は複式を見事にやってのけてくれている。何か複式の学校では何もできないみたいに言われたが、後閑小学校の実態も見てくれているか。

参加者8：私は田井小と宇野小に勤めたが、学校にはそれぞれの特徴というものがある。複式が一概にいいとか悪いとか、複式だからそれを続けなければならないとか、そういう観点から教育を捉えてはいけない。多方面から、いろんな角度から子どもの教育の幸せを求めての議論をしてほしい。

参加者9：適正規模というが、適正な人数の話が出てこない。学級の数だけでなく、1学級の定員、それから法律で、学級数で教員の数を決めている。そこに根本的な歪みがある。先ほど62人の学校という話があったが、行政はそういうところを作ってはいけない。どこに行っても同じような教育を受けさせる義務がある。小規模校に行

ったら授業を酷い受け方をさせられるようなことをわざわざ言っていたが、それが根本的に間違いだ。臨免、許可免でわけも分からない先生が家庭科を教えているとか、数学の先生が美術をしているとか、そういうことがあっては根本的におかしい。行政の怠慢だ。

いま、1学級の定員が35人。先進諸国はもう20人の世界だ。それを放置しておいて、経済学級ということで大勢詰め込んでやっているが、学級数が欲しいのであれば今ある学級を半分に分ければいい。35人いれば18と17に分けたら2学級になる。15人くらいが先進諸国では普通ではないのか。それをいま、大勢いないといけないと言っているが、世界の趨勢はそうではない。

それと、義務教育の目標は人格の完成だ。人材教育ではない。自分は田井小の学校運営協議会に入っているが、そこで学校目標に人材の育成という言葉が出てくる。いや、人材の育成などではないだろうと。人材の育成は専門学校でやればいい。ここは人格の完成を目指すべきという話をしている。

意見としては、小規模校で教員が足りないのであれば、そこに配置する。行政の責任で。それと、学級定員が多すぎるからそれを少なくする。そうすれば担任も増えるし、教員も当然増える。そうすれば教える側も余裕をもって教えられる。そういう根本的なところを政府に言ってほしい。言っているけど聞きませんではなく、だったら市独自でやってほしい。それが全然見えない。適正規模化というのは学級規模の適正化を考えてほしい。35人学級を放っておいてはいけない。

参加者10：自分も教科に対して先生の数足りないのは、やはり行政の責任だと思う。何校も掛け持ちして大変という状況も聞いたことがあるし、それについて教育委員会にお願いしたこともある。それをまず思った。

今日初めて参加して思ったが、この計画は何かお金の削減、また最初から統廃合をしないといけないということが感じられて仕方ない。だけど一番大事なのは、玉野の子どもたちがこれから未来を創っていく子どもたちに成長していく、そういう教育環境を整えることだと思う。

コロナ禍で、午前中だけ登校とか、昼から登校とかがあって、その時に先生方や子どもたちは気が付いた。35人の学級よりも、半分の17人とか、12、3人の方が、いろんなことで見てもらえるし、先生の方も見るができる。分からないこともいろいろ聞くことができる。少人数学級って凄く良いことに気が付いた。

自分が教員になった頃は玉野市で雇っている先生がいた。後閑小の複式の関係で、ここには先生が要として玉野市で雇っていた。それから県下で他市に先駆けて小学校で35人以下学級を実現した。それから、図書司書の全校配置も実現してくれたのは玉野市教委だ。もっと言うと、学校サポートスタッフの数を増やしてほしいとお願いしたときに、それもどんどん増やしてくれた。子どもたちのことを考えて一生懸命やってくれる玉野市の教育委員会が、こういう計画ではなくて、もっと市民の意見や、一番大事なのは保護者、それから子どもたち、教職員、この生の声をしっかり聞いて、それを基にした草案を作ってもらうことを願う。

最後にお願いしたいのは、8回の検討委員会の後ではなくて、途中途中で私たちや教員、保護者、市民の声を聞いて、議論する場をたくさん保証してもらいたい。検討委員会に伝えてほしい。

参加者3：中学校がそんなに大変ならば、小学校と中学校を分けて議論をしてほしい。特に小学校は、一人一人が十分に愛されて、顔や名前を覚えてもらって、個性や夢を分かってもらえる、そういう少人数の教育でこそ、が複雑な時代を生きていく子どもが育つと思う。宇野中学校は、Eプランで行くと1クラス36人だ。統廃合しなければ1クラス30人だ。統廃合すれば36.3人、東兎中学校とかが統合されなくても35.5人になってしまう。個性豊かな子どもたちを一人一人見ていこうと思えば、たとえ中学生でも少ないに越したことはないと思うがどうか。先ほどの意見にもあったが、会社が求める人材の育成ではなくて、共に生きる人間の教育だと思う。そのあたりも教育委員会の元学校の先生に話を聞きたいと思うがどうか。

更にもう一つ。地域の学校が大事だと思う。教育大綱にはいい言葉がいっぱい散りばめられている。地域ぐるみで未来を担う子どもたちを育成する。地域で子どもの安全安心な居場所を作る。地域を学びのフィールドにした取組を推進する。そういったことが書かれている。床面積やお金のことから出発するのではなくて、子どもを育てる教育の観点からこの議論を進めてほしいと切に願うがどうか。学校教育課長。

学教課長：少人数の方が教員もしっかり目が行き届いて手厚い教育ができるという話があったが、10人だから一人一人をしっかり見ることができる、30人だから目が行き届かないというものではないはずだ。確かに人数が多いほど大変であるし、なかなか行き届かない面もあるかと思うが、だからといって少ない方がいいという、そういう話ではないはずだ。教員は人数にかかわらず一人一人をしっかり見ていく、そういうものであると私は思っているし、先生方にはそういうことをお願いしたいと思っている。

先ほど中学校の大変な状況の話があった。途中質問のような話もあった。中学校が大変な状況の中、教育委員会は放っているのか、改善策がなかったのかというような話もあった。結局、教員の配置人数は学級数に応じて決められている。そういう中で、小規模校にはどうしても9教科配置できない。そこを何とか、しっかり子どもたちが教育を受けられるように、各教科の充実を図れるように、方法としてどうすれば専門的な教育を受けられるか、いろいろ対応しているところだ。その方法の一つとして、教科以外の教員が臨時で免許を取ってという学校も確かにあるし、小規模を兼務して専門の教員が指導に回ることもしている。とにかく、本当に教員不足の中、子どもたちがきちんと学べる環境を整えられるように、改善、対策をしているところだ。

ただ厳しい状況に変わりはない中で、改善策の一つとして、規模が大きくなればそのぶん教職員の配置人数も増える。そうすれば子どもたちの学習も充実ができる。長くなっただご意見ご質問に関連する話をさせてもらった。

参加者3：大勢の前で、市民を巻き込んで、こういう教育の議論をできたらと思う。

参加者11：私はぜひ統廃合を進めてもらいたいと思っている。築港小に子どもが通っているが、少ないなと普通に思う。

これまでの議事録も読ませてもらったが、概ね今日出た統廃合に反対する意見とほぼ同じものを皆さん語っている。また、地域の方の意見ばかりで保護者の意見が少ないと思う。見た感じでは保護者は少なそうであるし、本当の保護者の声を反映

して進めてもらえればと思う。

参加者 12：人数が多いほど先生の目が行き届かないのはやはり事実だし、先生も人間だ。その人その人にしっかり聞こうとしたら、40人よりは20人、20人よりは10人の方が身近に感じることができると思う。仕事だから当たり前といっても、仕事している人も人間だ。ロボットではない。先生に対してももっと優しく考えてあげた方が良くと思った。

それと小規模のデメリットでコミュニケーション能力が身に付きにくいと言うが、小さい子は本当に愛情が一番で自信がつくので、人数が多いと手を差し伸べたいと思っても、その時に他の子が抱きついたらその子に手をかけることができない。そこでしゅんとする子もいる。適正化というのは規模ではなくて、子どもたちに適正化した状態を作ってあげるのが一番良いと思う。

焦らずに、しっかり皆さんで本当にどうすれば良いか考えていけたらと思う。

参加者 13：後閑在住の現職教員だ。後閑小は対象になっているので、地域住民としては心配をしている。

統廃合ではなくて、いかに玉野市に子育て世帯を呼び込むか。玉野市はこんなに子育て充実してますよと、アイデアを持って他市にPRして、そこを努力して、それでも人が集まらないとなってから考えても遅くないと思うので、教育委員会だけでなく、玉野市として人をどう呼び込むかということをしてほしいと思う。

ぜひそれぞれの小学校を残して、でないとならば後閑や鉾立が廃校になったらそこに人は住まない。ぜひ踏みとどまってほしい。

参加者 4：孫がイタリアのミラノにいる。孫のところに行って、魅力的と思ったのが、1クラス17人とか18人に2人の教員がいて、口頭での試験をしたりして、意見を言いやすい環境があった。それか外へよく出て行ってミラノの街のいろんな歴史を学んでいた。校外学習をよくしているなど痛切に感じて、日本もそういうことができれば良いのにと思っていた。

小規模校のデメリットは、見方を変えれば大規模校のデメリットと一致していて、これは小規模校のデメリットかと率直に思った。だから見方を変えたらこんなにも言い方が違うのだなと思って、例えば「集団の中で自己主張したり」とあるが、やはり小規模で言いやすい、個性を大事にしようという最近の流れの中で、今の子どもたちは褒めて育てよう、一人一人を大切にしよう、思いやる子どもたちを作ろうとか言って、私はそういう教育が良い、そういう方向に向かっていると思ったが、ここで見ているとデメリットが大規模校のデメリットではないかと逆に思えることがたくさん書いてあった。

魅力ある玉野市と言っていたが、本当に玉野市で育てたいと思えるような、豊かな個性を大事にする学校教育をしてほしい。お金をどこに使うかだ。子育ての、子どもたちの福祉、教育にどんどん税金を使ってくれたらと思うが、お金のことで大規模校を作ろうとするのではなく、一つ一つの学校を大事に、子どもたちを大事にして育ててあげてほしい。